

2011 年度問題演習

いわゆる特別権力関係論に関する次の問 1～3 までの各記述について、正しいものには、  
誤っているものには×を付しなさい。

- 問1 特別権力関係論によれば、公権力と特別な関係にある者に対して公権力が包括的な支配権を有し、公権力は法律の根拠なく人権を制限することができ、それについて裁判所の審査は及ばない。
- 問2 特別権力関係が成立する場合としては、法律の規定に基づくものと本人の同意に基づくものがある。前者の例として挙げられていたのは受刑者の在監関係と公務員の在勤関係であり、後者の例として挙げられていたのは国公立学生の在学関係であった。
- 問3 特別権力関係論には、本質的な問題がある。それは、特別権力関係に属する者が一般国民としての地位に何らかの修正を受ける点で共通の特色を持つにとどまるにもかかわらず、権力服従性という形式的要素によって包括し、人権制約を一般的・観念的に許容する点である。

----- キリトリ -----

|    |      |  |    |     |     |     |
|----|------|--|----|-----|-----|-----|
| 演習 | ふりがな |  | 解答 | 問 1 | 問 2 | 問 3 |
|    | 氏名   |  |    |     |     |     |